

# 環境活動レポート

## 2011年度

2011年 5月 1日～2012年 4月30日



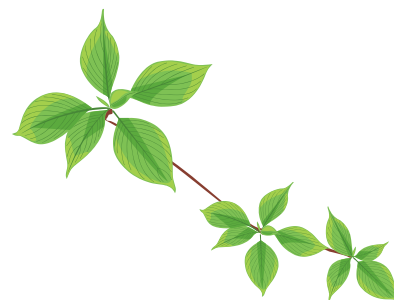
For the beauty of the earth  
For a dynamic and attractive society



**日本化学機械製造株式会社**

発行 2012年 6月 28日 (環境月間)

## 目次



	ページ
目次	1
環境方針	2
私たちの環境活動アルバム	3
4年間でこんなに変わりました	3 , 4
生物多様性のために	5
事業経歴と環境関連活動の経緯	6
事業経歴と事業概要	6
環境関連活動の経緯	7
組織の概要	8
1. 主な環境負荷の実績	9 , 10 , 11
2. 環境目標及びその実績	12 , 13 , 14
3. 環境活動の評価	15 , 16 , 17 , 18
4. 活動事例 トピックス	19 , 20
5. 代表者の見直し	21
6. 環境関連法規制等の順守状況	21



## 環境方針

私たち一人ひとは、社是に徹し当社の基本理念である  
美しい地球 生き活きとした社会のために  
経営方針の下、ここに環境方針を定め、行動することを宣言します。

社是 『誠心誠意』 『感謝の奉仕』

### 基本理念

*For the beauty of the earth*  
*For a dynamic and attractive society*

美しい地球 生き活きとした社会  
それらが調和し持続し発展するために  
役立つ 技術 と 人材 を提供します



### 環境方針

全ての人々が健康に生き活きと生きる事ができる社会は、豊かな自然と健全な環境の上に成り立っています。

地球環境が保全され、限り有る資源と多様性に富む生物を将来に引き継いでいける持続可能な社会を構築するために、環境について考え、行動することは、21世紀を生きる人類のそして経済社会を営む企業の責務であると強く認識します。

私たち日本化学機械製造株式会社は、事業活動における環境負荷の低減を図るために、次の行動指針に定める環境保全活動を推進します。

〈環境保全への行動指針〉

1. 以下について、環境目標・活動計画を定めて、継続的な改善に努めます。
  - (1) 電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量削減
  - (2) 節水推進
  - (3) 廃棄物排出抑制、リサイクルと適正処理の推進
  - (4) 環境に有害な化学物質使用量の削減と管理の推進
  - (5) 製品における環境配慮の促進
  - (6) グリーン購入の促進
2. 環境関連法規や当社が約束したことを順守します。
3. 環境への取り組みを活動レポートとして公表します。

制定日 2007年 12月 10日

見直日 2011年 5月 1日

日本化学機械製造株式会社

代表取締役社長

高橋 正一

私たちの環境活動アルバム

“4年でこんなに変わりました”編 ー旧資材置場付近の変化

2007年以前



2008年9月



2009年4月



2008年11月



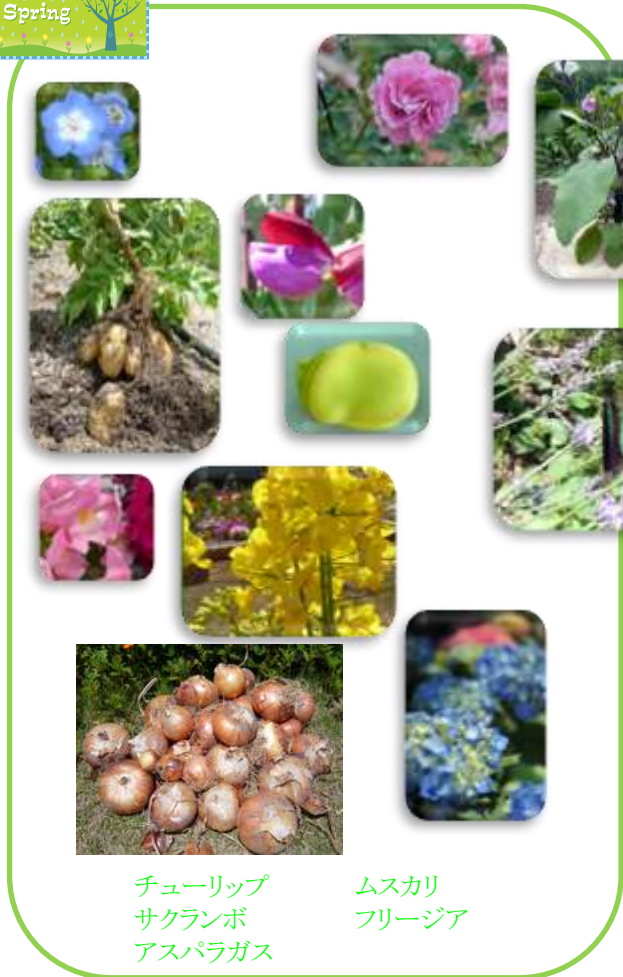
2012年6月現在



# 私たちの環境活動アルバム

## “生物多様性”編

私たちが育てた花、野菜、果樹の写真に掲載します。  
 様々な植物を育てる中で、蝶々、トンボ、カマキリ、テントウムシ、  
 ミツバチなどの昆虫、爬虫類、小鳥などが訪れるようになりました。



チューリップ  
 サクラambo  
 アスパラガス

ムスカリ  
 フリージア

ピーマン  
 キュウリ  
 ダリア  
 おくら

ぶどう  
 ひょうたん  
 ペチュニア

サルビア  
 とうもろこし  
 サンパンチェス  
 マリーゴールド



白菜  
 ホウレンソウ

サクラソウ  
 シクラメン

レタス



# 事業経歴と環境関連活動の経緯

## 事業経歴と事業概要

- 1916年 「タカハシ・ギョーム式」アルコール蒸留機の研究成果を実用化し  
社会に貢献するために、当社の前身である高橋鉄工所を設立
- 1934年 国内で最初に無水アルコール蒸留装置の開発に成功
- 1939年 社名を日本化学機械製造(株)に改称
- 1941年 化学機械、水管式ボイラ、鉱山機械の製造部門発足
- 1944年 海軍省の直轄監理工場に指定
- 1946年 加島工場を本社に事業を再開
- 1950年 一般化学機械の設計・製作・建設事業に進出  
「製作」と「エンジニアリング」の両輪体制確立
- 1953年 炭素鋼、銅に加えステンレス製機器の製作開始
- 1957年 チタニウムなど特殊材製機器の製作開始
- 1960年 超低温液化ガス機器の設計・製作開始
- 1963年 海外向け 触媒製造(ゴム老化防止剤装置用)プラント納入
- 1964年 シャドーマスク生産装置製作開始
- 1967年 エアヒーター、熱媒体ボイラの製作開始
- 1970年 当社滋賀工場建設
- 1972年 カルタースプレードライヤー納入開始
- 1973年 異性化糖製造プラント納入
- 1974年 当社南山田工場建設
- 1985年 東洋一規模の焼酎製造プラント納入
- 1983年 加圧濾過機製作開始
- 1986年 食品、有機ファインケミカルプラント納入
- 1997年 海外向けなど大型プラント納入
- 2002年 触媒式排ガス脱臭装置開発、納入開始
- 2005年 アンモニア処理装置開発、納入開始
- 2006年 CSR推進室設置
- 2008年 バイオエタノールプラント納入  
多結晶シリコン蒸留プラント納入
- 2010年 マイクロ波連続高圧装置納入  
多目的蒸留実験装置完成
- 2012年 本社新社屋・新食堂棟完成



以上のとおり、当社はアルコール蒸留装置の設計・製作を創業の原点として70年以上に亘り操業を続けており、その間、化学・食品・医薬工業界様向けにも、広く化学機械や化学プラントをご提供しています。最近では、70年の歴史によって培った設計・製造技術と豊富な経験を駆使して、バイオエタノール製造プラントや太陽光電池に供される原料製造プラントの建設などにも携わりました。また、当社独自の蒸留技術を活かした廃溶剤回収プラント、環境負荷物質の回収装置、脱臭設備などもご下命頂いており、これらの製品を通じて社会の環境改善にも貢献しております。

### 2011年度事業活動実績

- 1) 資本金 2億7千5百万円
- 2) 売上高の推移

2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度*
61.3億円	88.9億円	82.7億円	69.1億円	64.5億円

\*売上内訳 化学機械・プラント:55億円  
超低温機器 :9億5千万円

# 環境関連活動の経緯

[ ]: 環境改善設備投資の一例

- 1999年 ISO9001認証・登録 対象範囲: 超低温液化ガス機器
- 2006年 CSR、リスクマネジメント推進体制確立
- 2007年 エコアクション21自治体イニシアチブ大阪スクール参加
- 2008年 エコアクション21 認証・登録(本社・工場) [環境改善設備投資計画等策定]
- 2009年 [太陽光発電10KW, 受変電設備改修、工場照明を省エネ化、工業用水配管全面改修等]
- 2010年 エコアクション21 認証・登録を全サイトに拡大  
[低燃費車(電気自動車、ハイブリッド車)導入、空調機を順次省エネ型に転換等]

エコアクション21認証・登録番号：0002822 エコアクション21ガイドライン2009年版  
 対象事業所：本社・工場、東京営業所、滋賀工場、南山田工場  
 事業活動：化学機械・化学装置・燃焼装置・超低温液化ガス機器の設計・製作・販売  
 更新・登録日：2010年8月25日

- 2011年 [新社屋、新食堂棟建設計画策定、洗浄設備改修等]
- 2012年 ISO9001認証・登録を全機器に拡大  
[新社屋、新食堂棟完成、緑地面積660㎡拡大、太陽光発電23KW増設、上水配管改修等]

環境活動の成果の一例として、図-I に環境活動開始前年度(2007年度)からの二酸化炭素総排出量の推移を、図-II に操業10,000時間当たりの二酸化炭素総排出量の推移を示します。

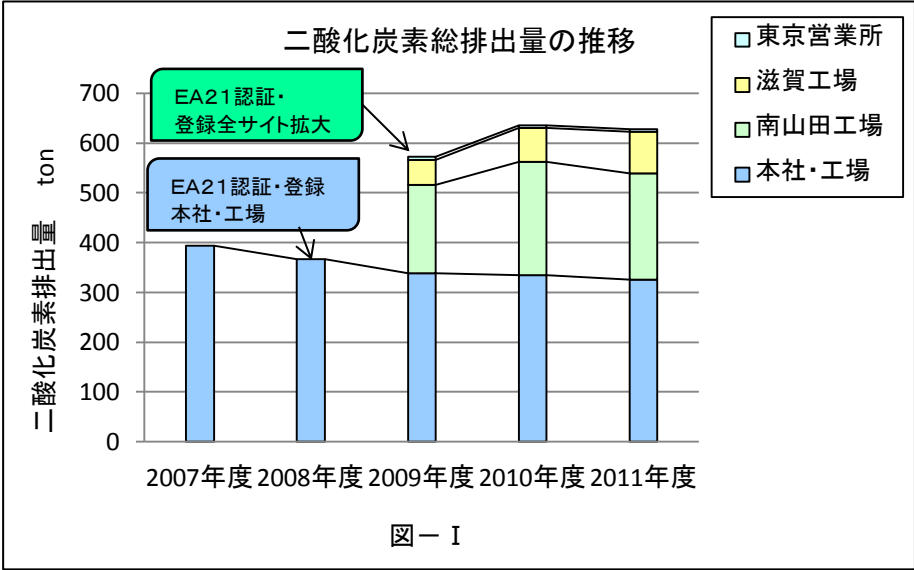


図-I

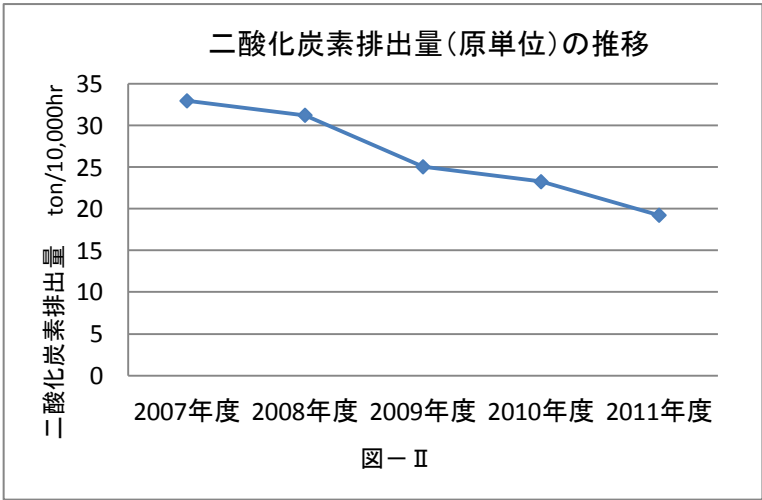


図-II



# 組織の概要

## 日本化学機械製造株式会社

代表取締役社長 高橋 正一

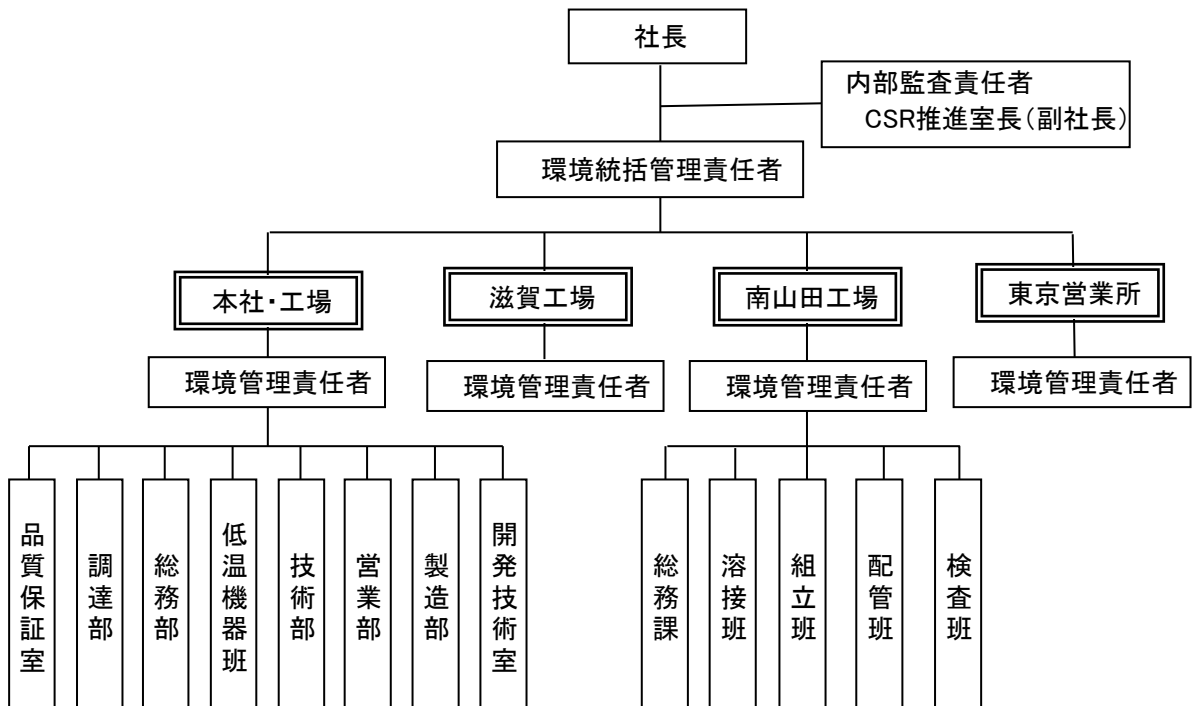
全社環境管理責任者 取締役製造部長 宇山 正彦  
 全社環境事務局 開発技術室 中嶋 幹恵  
 技術部 海瀬 卓也  
 技術部 大橋 雅昭  
 品質保証室 安藝 成伸  
 製造部 福本 学  
 南山田工場環境事務局 下西 秀夫  
 井上 幾夫  
 泉 倫



サイト	本社・工場	滋賀工場	南山田工場	東京営業所
環境管理責任者	取締役製造部長 宇山 正彦	取締役製造部長 宇山 正彦	工場統括 浅野 宣男	取締役営業所長 香山 伊平
TEL	06-6308-3881	0748-75-2131	0748-72-3007	03-3567-8101
従業員数	155名	0名	26名	6名
敷地面積	21,685㎡	27,229㎡	3,727㎡	
工場床面積	6,578㎡	5,024㎡	1,901㎡	
事務所等床面積	3,025㎡	0㎡	214㎡	賃貸事務所

本社・工場 大阪府大阪市淀川区加島4丁目-6番-23号  
 滋賀工場 滋賀県湖南市大池町7番地1  
 南山田工場 滋賀県湖南市岩根字南山田1622番5  
 東京営業所 東京都中央区京橋1丁目6番12号（京橋イーサスビル5階）

### 環境経営システム組織

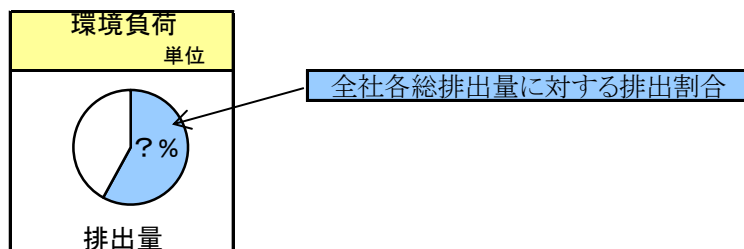


# 1. 主な環境負荷の実績 2011年5月～2012年4月

## 1-1. 各サイト別環境負荷の実績

当社の各サイトにおける環境負荷の実績及び総排出量に対する各サイトの環境負荷別の排出割合を、【図-1-1】に示します。

[図-1-1の表示内容]



環境負荷 サイト	二酸化炭素 ton	一般廃棄物 ton	産業廃棄物 ton	総排水量 m <sup>3</sup>
本社・工場	52 324.5	58% 3.9	96% 92.1	83% 9,421
南山田工場	34% 214.2	41% 2.7	4% 3.5	9% 995
滋賀工場	13% 84.1	0 ※1	0 ※1	8% 869
東京営業所	1% 4.6	2% 0.1	0	0 ※2
全サイト 合計	627.4 ton	6.7 ton	95.6 ton	11,285 m <sup>3</sup>

※1 滋賀工場では、生産活動は行っていない。

現在は、南山田工場の 資材等の仮置き及び開発機器等の実験等で一時的に使用しているのみ。

※2 東京営業所は、賃貸事務所の制約から水使用量は把握できない。

【図-1-1 各サイトの環境負荷】

# 1. 主な環境負荷の実績 2011年5月～2012年4月

## 1-2. 各環境負荷の内訳

### (1) 二酸化炭素排出量

各サイトにおけるCO<sub>2</sub>の主な排出源を、【表-1-2-1】に示します。

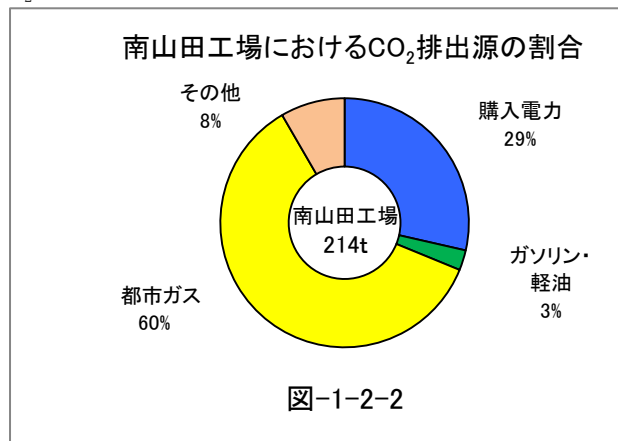
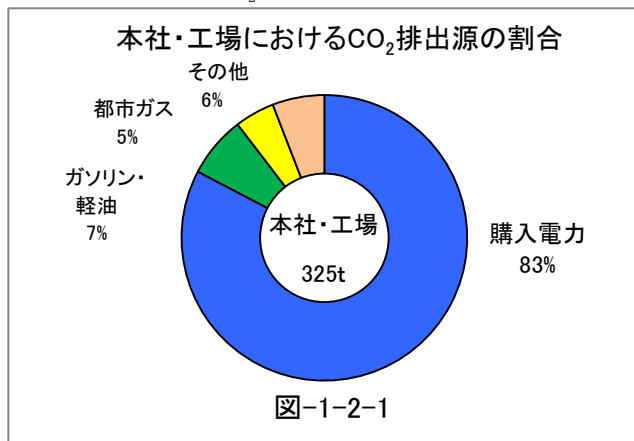
また、当社の二酸化炭素総排出量の52%を占める本社・工場と34%を占める南山田工場における排出源の割合を、【図-1-2-1】及び【図-1-2-2】に示します。

本社・工場では、83%が購入電力、7%が自動車燃料であるガソリン・軽油による排出です。南山田工場では、超低温液化ガス容器の製作過程で都市ガスを熱源とする乾燥炉を使用しているため、都市ガスによる排出が60%と多くなっています。

【表-1-2-1】 [単位:ton]

CO <sub>2</sub> 排出源	本社・工場	南山田工場	滋賀工場	東京営業所	全社
購入電力 <sup>※1</sup>	268	61	84	5	418
ガソリン・軽油	23	6	0	0	28
都市ガス	15	129	0	0	144
その他	19	18	0	0	37
合計	325	214	84	5	627

※1 CO<sub>2</sub>排出係数: 各サイトとも 0.000378 t-CO<sub>2</sub>/kwh



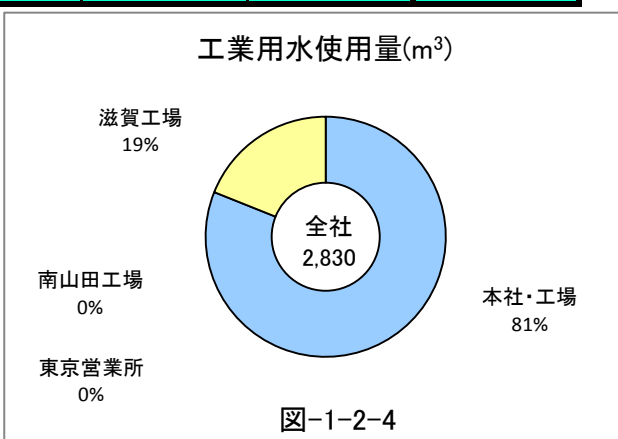
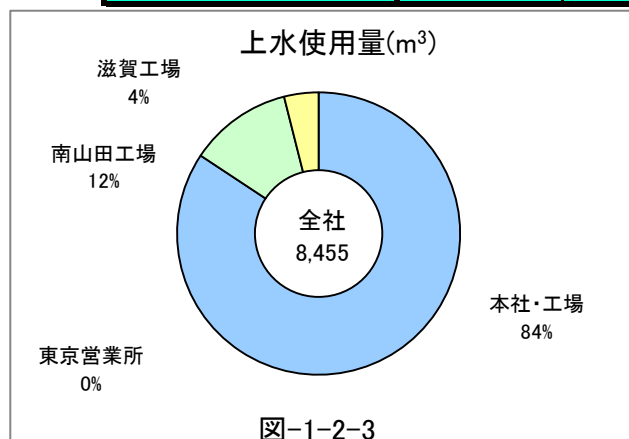
### (2) 総排水量

各サイトにおける排水区分ごとの実績を、【表-1-2-2】に示します。

また、総排水量に対する各サイトの排水割合を、【図-1-2-3】及び【図-1-2-4】に示します。なお、当社の場合、使用量を排水量としています。

【表-1-2-2】 [単位:m<sup>3</sup>]

排水の区分	本社・工場	南山田工場	滋賀工場	東京営業所	全社
上水	7,127	995	333	0	8,455
工業用水	2,294	0	536	0	2,830
合計	9,421	995	869	0	11,285



# 1. 主な環境負荷の実績 2011年5月 ~2012年4月

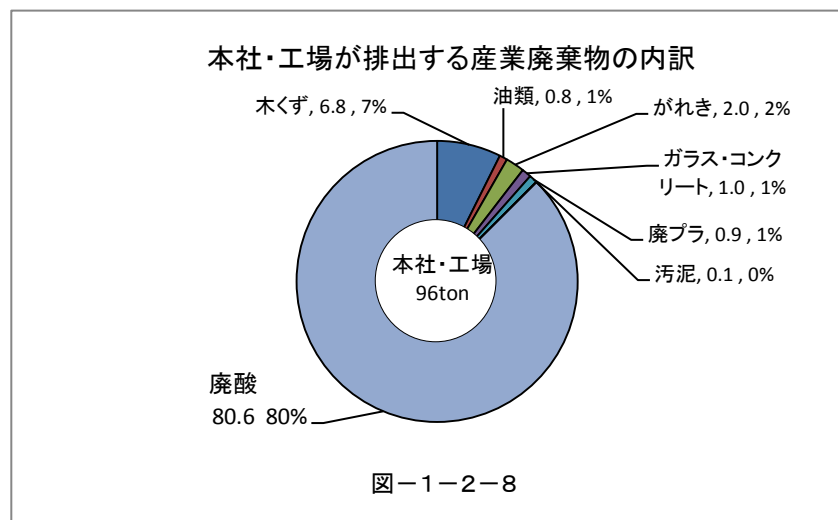
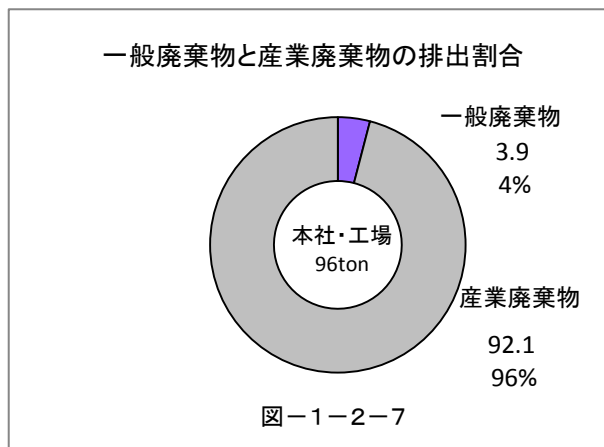
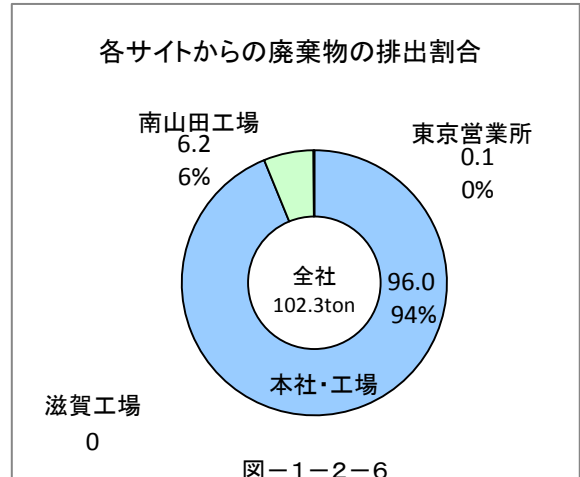
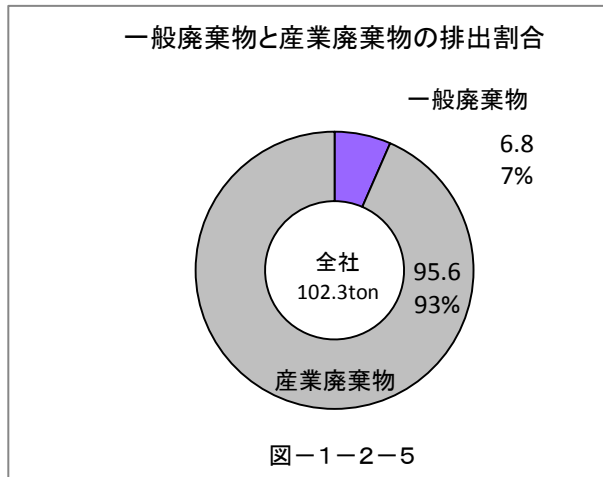
## (3) 廃棄物排出量

全社における一般廃棄物と産業廃棄物の排出割合を【図-1-2-5】に、各サイトごとの一般廃棄物と産業廃棄物の合計排出量を【図-1-2-6】に示します。

廃棄物総排出量の約93%は産業廃棄物であり、また、廃棄物総排出量の約94%は本社・工場から排出されています。

本社・工場における一般廃棄物と産業廃棄物の排出割合を【図-1-2-7】に、同じく本社・工場から排出される産業廃棄物の内訳を【図-1-2-8】に示します。

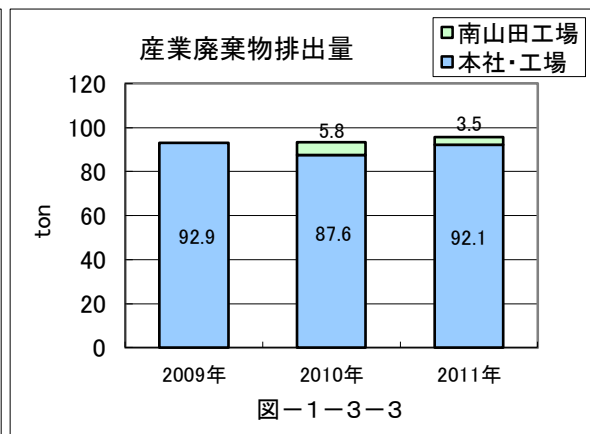
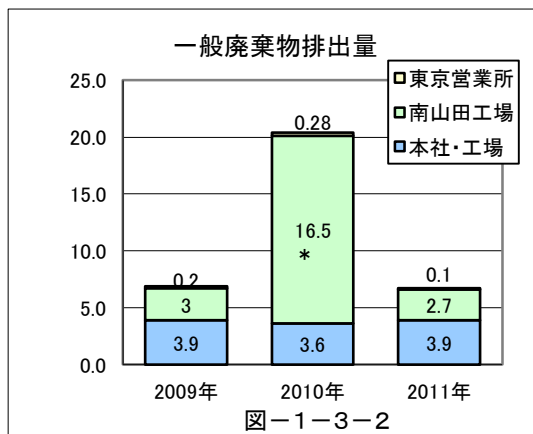
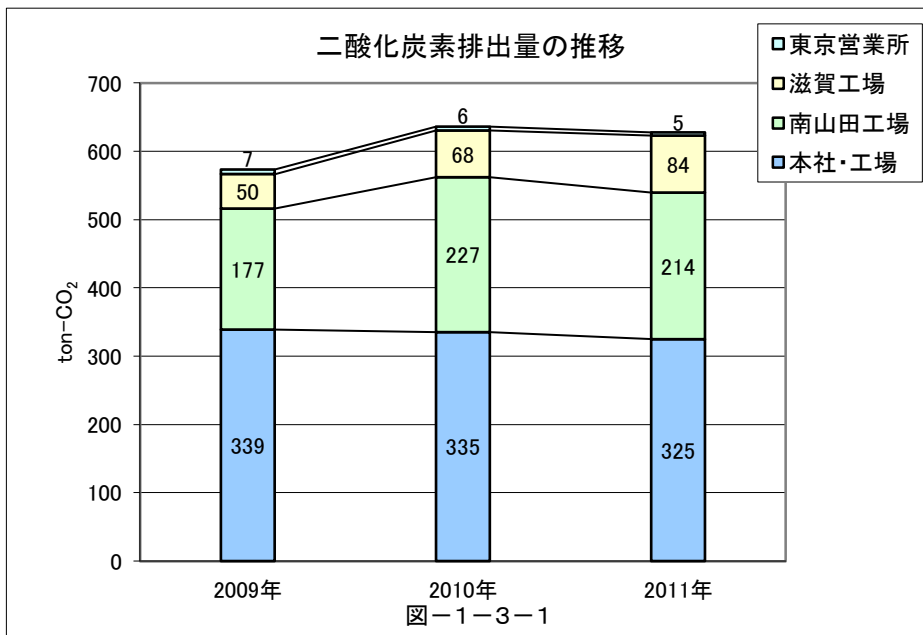
本社・工場から排出される産業廃棄物の80%が廃酸で、本社・工場で作成するステンレス製機器の洗浄工程より洗浄廃液として排出され、その99.8%は水です。



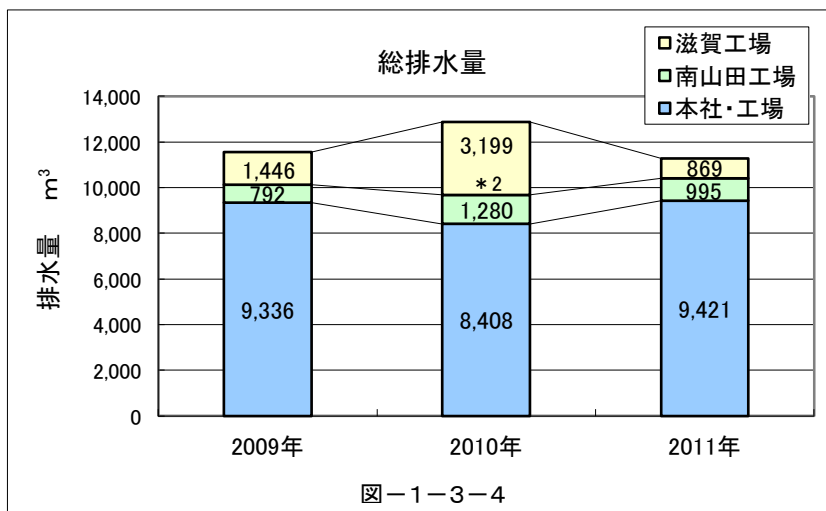
# 1. 主な環境負荷の実績 2011年5月～2012年4月

## 1-3. 主な環境負荷の推移

主な環境負荷の直近3年間の推移を、【図-1-3-1】～【図-1-3-4】に示します。



\*1: EA21取組みに際し、一斉3Sを実施し遊休品等を一括処分したため急増した。



\*2: 滋賀工場の工水配管にトラブルがあり漏えい発生。原因究明し、是正済み

## 2. 環境目標及びその実績

### 2-1. 本社・工場

当社では、主な環境負荷の大半を排出する本社・工場を、環境側面における最重要サイトと位置付け、2008年より環境活動に取り組んでいます。

本社・工場では、【表-2-1】に掲げる項目について環境目標を設定し、活動を展開しています。

主な環境負荷の基準年度値及び今年度の実績値並びに今後2年間の目標値を【図-2-1-1】～【図-2-1-4】に示します。

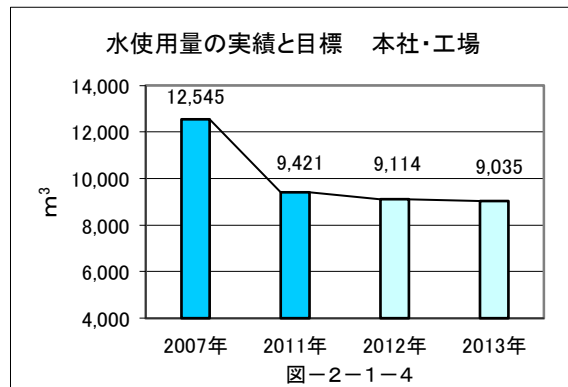
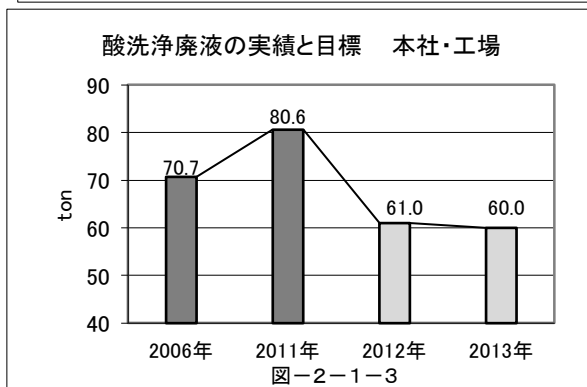
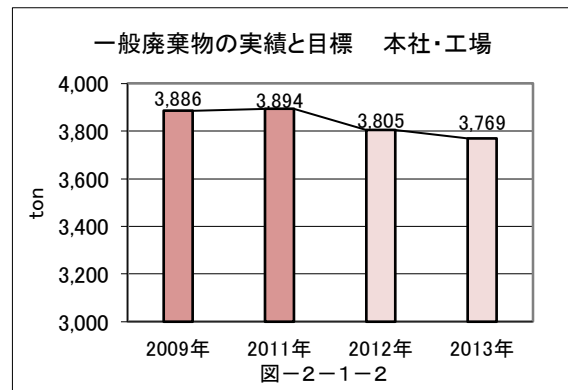
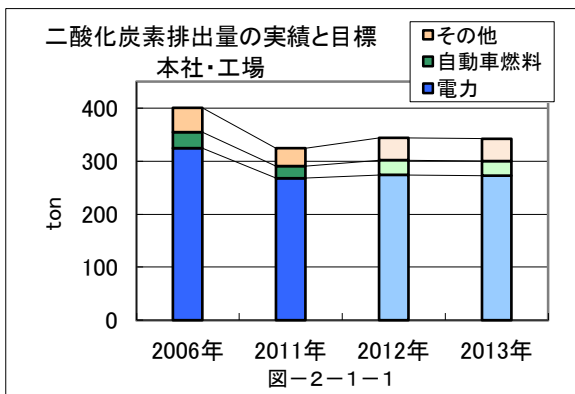
【表-2-1】 本社工場の環境目標及びその実績

項目	年度	(基準年度) 基準値	2011年 (2011年5月～2012年4月)		2012年	2013年
			目標	実績	目標	目標
CO <sub>2</sub> 削減 <sup>※1</sup> [電力]	ton-CO <sub>2</sub>	(2006年) 325	△15% 276.3	△17% 268.3	△15.5% 274.4	△16% 272.8
CO <sub>2</sub> 削減 [自動車燃料]	ton-CO <sub>2</sub>	(2006年) 29.9	△6% 28.1	△25% 22.5	△7% 27.8	△8% 27.5
一般廃棄物削減	kg	(2009年) 3,886	△1% 3,844	△0% 3,894	△2% 3,805	△3% 3,769
コピー紙使用量削減	kg	(2008年) 5,257	△4% 5,047	△10% 4,751	△5% 4,994	△6% 4,942
産業廃棄物削減 [廃酸(酸洗浄廃液)]	ton	(2006年) 70.7	△5% 67.1	+20% 80.6	△13.7% 61.0	△15% 60.0
[廃プラスチック]	kg	(2008年) 968	△24% 736	△10% 867	△25% 726	△26% 716
節水	m <sup>3</sup>	(2007年) 12,545	△27% 9,158	△25% 9,421	△28% 9,032	△29% 8,907
化学物質使用量の削減 <sup>※2</sup>	L	(2009年) 240	△13.3% 208	+23% 256	△20% 191	△20% 191
製品における環境配慮の促進 受注件数		(2009年) -	11件	18件	12件	13件
グリーン購入			1品目増加	設備多数	2品目増加	3品目増加

※1 本社・工場では、総排出量の76%が電力、7%が自動車燃料(ガソリン+軽油)につき、これらについて削減目標を設定しています。

※2 当社には、化学物質を原料とする製品はありません。

\*今年度は、新社屋建設、移動のために通常以外の使用、廃棄がありました。



## 2. 環境目標及びその実績

### 2-2. 南山田工場

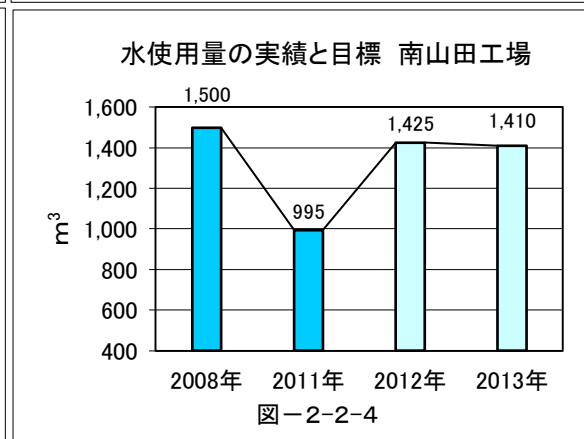
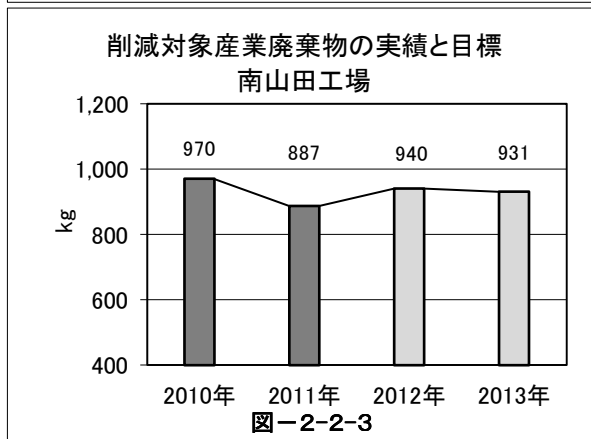
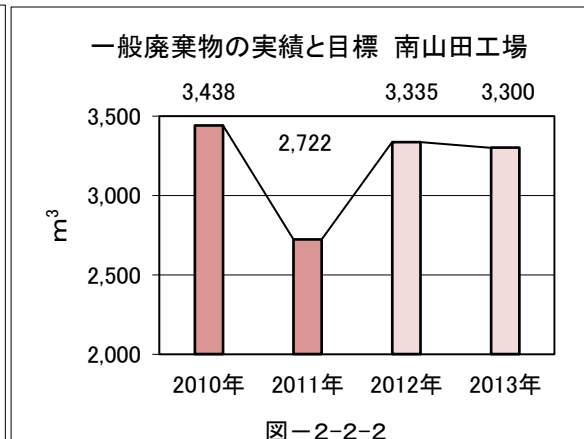
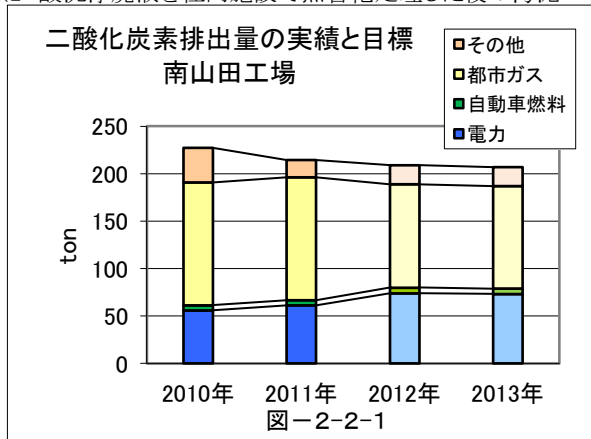
本社・工場に次いで環境負荷の大きい南山田工場では、【表-2-2】に掲げる項目について環境目標を設定し、活動を展開しています。主な環境負荷の基準年度値及び今年度の実績値並びに今後2年間の目標値を【図-2-2-1】～【図-2-2-4】に示します。

【表-2-2】 南山田工場の環境目標及びその実績

項目	年度	(基準年度) 基準値	2011年 (2011年5月～2012年4月)		2012年	2013年
			目標	実績	目標	目標
CO <sub>2</sub> 削減 [電力]	ton-CO <sub>2</sub>	(2008年) 77.7	△4%	△21%	△5%	△6%
CO <sub>2</sub> 削減 [自動車燃料]	ton-CO <sub>2</sub>	(2008年) 6.31	△5%	△11%	△6%	△7%
CO <sub>2</sub> 削減 [都市ガス]	ton-CO <sub>2</sub>	(2008年) 113.66	△3%	+14%	△4%	△5%
一般廃棄物削減	kg	(2010年 <sup>※1</sup> ) 3,438	△2%	△21%	△3%	△4%
コピー紙使用量削減	kg	(2008年) 301	△4%	△19%	△5%	△6%
産業廃棄物削減 [廃プラスチック]	kg	(2010年) 48.0	△3%	+319%	△4%	△5%
[汚泥 <sup>※2</sup> ]	kg	(2010年) 220	△2%	△27%	△3%	△4%
[混合産業廃棄物]	kg	(2010年 <sup>※1</sup> ) 702	△2%	△25%	△3%	△4%
節水	m <sup>3</sup>	(2008年) 1,500	△4%	△15%	△5%	△6%
化学物質管理の徹底	安全性伝達の為MSDS整備		表示の徹底			
	MSDSを活用し化学物質の性質を周知徹底		種類・使用、保管量の把握			
製品における環境配慮の促進	製品出荷梱包材の配慮		梱包資材・方法の調査			
	梱包・包装簡素化への取組					

※1 2010年度基準値は、実績値の是正により算出

※2 酸洗浄廃液を社内施設で無害化処理した後の汚泥



\*削減目標を掲げている産業廃棄物についてのみ記載しています

### 3. 環境活動の結果と評価、次年度の取組

3-1. 本社・工場

勝率(目標達成率) 0.5 5勝5敗 (10項目中 5項目未達)

主な取組み計画			達成状況		評価(結果と今後の取組み)	
二酸化炭素排出量削減	1	<b>電力の削減</b>	基準値	325.0 ton-CO <sub>2</sub>	<b>目標達成</b> 2007年度に活動開始後、継続して目標を達成しており、今年度も削減目標値を2ポイント上回る成果を上げた。 デマンド監視システムの運用、太陽光発電の増設、工場照明の省エネ化、省エネ機器へ更新などの計画的積極的な設備投資がく寄与したと推定。 また、社員の節電、省エネへの取組みも格段に向上してきている。従来の各取組みに加え、昨今の電力事情及び将来の動向を勘案し、そもそも「電気を使わない」を基本とした取組を推進する。	
		・不要照明の消灯	○	目標値		276.3 ton-CO <sub>2</sub>
		・空調設備の点検	○	削減比		-15%
		・デマンド監視システム運用	◎	実績値		268.3 ton-CO <sub>2</sub>
		・待機電力の削減	○	削減比		-17%
		・設備の空運転削減	○			
		・クール/ウォームビズ推進	○			
		・太陽光発電の安定運転	◎	-		-
		・自動販売機の削減	◎			
		・工場照明の省エネ化	◎			
・省エネ家電・電気機器への更新	◎					
2	<b>自動車燃料の削減</b>		基準値	29.9 ton-CO <sub>2</sub>	<b>目標達成</b>	
	・エコドライブ運動展開	◎	目標値	28.1 ton-CO <sub>2</sub>	電力と同様に、活動開始後から連続して目標を達成している。低燃費車への切替えなど積極的な投資と相まって、社員の日常の取組みと評価。取組み事項は適切であり、今後も目標達成に向けて取組む。	
	・車両定期点検の実施	◎	削減比	-6%		
	・公共機関の利用促進	○	実績値	22.5 ton-CO <sub>2</sub>		
	・E3・バイオガソリンの給油促進	○	削減比	-25%		
	・電気自動車の有効活用	◎	-	-		
廃棄物排出量削減	1	<b>一般廃棄物の削減とリサイクルの促進</b>	基準値	4,000 kg	<b>目標未達成</b>	
		・分別回収促進 (シール掲示)	○	目標値	3,844 kg	目標値を50kg超過したが、新社屋建設で想定外の排出があったことを勘案すると、取組み事項はほぼ適切。排出ルールが順守されていることが取組みの成果の一つ。取組みを継続する。
		・消耗品等適正保管・使用の励行	○	削減比	-4%	
		・機密文書の再生処理化	○	実績値	3,894	
	・部内ゴミ箱の削減	○	削減比	-3%		
	2	<b>コピー紙の使用量削減</b>		基準値	5,257 kg	<b>目標達成</b>
		・再生紙利用の明示化	○	目標値	5,047 kg	コピー紙削減については、全社で十分に浸透していると判断できる。日常の取組みを継続する。
		・プロジェクターによるペーパーレス化	○	削減比	-4%	
		・スキャナー・PDFの有効利用	○	実績値	4,751 kg	
	・両面印刷の推進	○	削減比	-10%		
	3	<b>廃プラスチック</b>		基準値	968 kg	<b>目標未達成</b>
		・分別回収によるリサイクル化促進	△	目標値	736 kg	基準値よりも削減できたが、目標値までは至らず。購入品に付随する緩衝材などの排出が多く、これらの対応が一つの課題であるが、当面今年度の取組みを継続する。
・使い捨て製品の使用や購入を抑制		△	削減比	-24%		
・溶接棒包装のリサイクル化		○	実績値	867 kg		
・業務外PETボトル廃棄禁止	○	削減比	-10%			

取組み手段ごとの評価: ◎:十分成果があった ○:概ね成果があった △:一部未達 ×:未達



### 3. 環境活動の結果と評価、次年度の取組

3-1. 本社・工場

勝率(目標達成率) 0.5 5勝5敗 (10項目中 5項目未達)

主な取組み計画			達成状況		評価(結果と今後の取組み)		
廃棄物排出量削減	4	<b>産業廃棄物の削減とリサイクルの促進</b>	基準値	70.7 ton	目標未達成 取組み事項は着実に推進したが、洗浄を要する生産機器の増加分を吸収することはできなかった。受注機器の仕様に依存する度合いが高いが、目標値は変更することなく、削減に取り組む。		
		酸洗浄廃液の削減	目標値	67.1 ton			
		・適正使用の励行(過剰使用の抑制)	削減比	-5%			
		・酸洗浄対象機器の仕様見直	実績値	80.6 ton			
		・代替方法の検討	増加比	14%			
・廃液再利用法の検討		-	-				
節水	1	<b>水道水・工業用水の削減</b>	基準値	12,540 m <sup>3</sup>	目標未達成 総使用(排水)量は、活動開始後から継続して削減できているが、上水に関しては未達であった。新社屋建設による特殊要因もあるが、今後取組み事項を強化する。工水については、計画事項を継続する。		
		・小まめな節水運動	目標値	9,158 m <sup>3</sup>			
		・給水設備の保守点検	削減比	-27%			
		・配管の定期監視	実績値	9,421 m <sup>3</sup>			
		・大量消費用途の改善	削減比	-25%			
・テスト用水の再利用化計画							
化学物質の削減・管理	1	<b>化学物質の削減・管理</b>	基準値	240 L	目標未達成 当社は業態上、取扱う化学物質は少ないが、製品製作段階で付着する油脂除去のため使用するシンナーを、削減目標として設定した。この目標は未達であったものの他の取組みは着実に実施でき、成果は得られていると評価する。引き続き管理を行っていく。		
		・化学物質管理者会議の設置と運営	目標値	208 L			
		・使用化学物質の把握・記録・管理	削減比	-13.3%			
		・パトロールの実施	実績値	256 L			
		・排水等の測定・監視	増加比	7%			
		・漏えい事故時の対策・訓練実施					
		・汚染防止のための作業改善					
・リスクアセスメントの実施を全社展開							
環境に資する製品	1	<b>製品における環境配慮推進</b>	目標値	11件	目標達成 当社製品・技術での貢献として、当社の環境関連機器の受注件数を目標に掲げ、目標を上回る受注を獲得できた。当社製品での社会貢献を、今後も目指す。		
		・『環境配慮スコア表』運用継続 (設計時、施工時における環境配慮)	実績値	18件			
		・省エネ設計推進					
		・発明考案表彰の省エネ設計推奨					
		・環境機器の拡販					
グリーン購入	1	<b>グリーン購入</b>	都度実施 導入済み		目標達成 グリーン調達は、対応可能な物品から積極的に取り組んでいる。今年度は新社屋建設にあたり環境配慮型製品の採用を行った。今後もグリーン調達を継続する。		
		・事務用品のグリーン調達					
		・新社屋における環境配慮製品の採用					

取組み手段ごとの評価: ◎:十分成果があった ○:概ね成果があった △:一部未達 ×:未達

### 3. 環境活動の結果と評価、次年度の取組

3-2. 南山田工場

勝率(目標達成率) 0.78 7勝2敗 (9項目中 2項目未達)

主な取組み計画			達成状況		評価(結果と今後の取組み)		
二酸化炭素排出量削減	1	<b>電力の削減</b> ・節電活動展開の徹底 ・待機電力の削減 ・設備の空運転削減 ・高圧受電用変圧器の更新	◎	基準値	77.7 ton-CO <sub>2</sub>	目標達成 本年度社員の節電対策及び意識が確実によくなり目標比82%と達成された。次年度も引き続き削減を行う。	
			○	目標値	74.6 ton-CO <sub>2</sub>		
			○	削減比	-4%		
			◎	実績値	61.2 ton-CO <sub>2</sub>		
	2	<b>自動車燃料の削減</b> ・エコドライブ運動の展開 ・乗り合せ運動の展開(人・物) ・車輛定期点検の実施	○	基準値	6.3 ton-CO <sub>2</sub>	目標達成 ワゴン車の乗換え効果が出ている。現施策による更なる効率化を目指して削減に努める。	
			◎	目標値	6.0 ton-CO <sub>2</sub>		
			◎	削減比	-5%		
			◎	実績値	5.6 ton-CO <sub>2</sub>		
	3	<b>都市ガスの削減</b> ・真空乾燥炉稼働率向上(月初工程会議の徹底) ・送風機インバーターの管理データ管理 ・ガスバーナー保守点検の実施	△	基準値	113.7 ton-CO <sub>2</sub>	目標未達成 基準年より増産のため排出量は増加したが、炉の稼働率向上とともに、1本当りの燃費は向上している。稼働率を維持してさらなる燃費向上に努める。	
○			目標値	110.2 ton-CO <sub>2</sub>			
△			削減比	-3%			
○			実績値	129.5 ton-CO <sub>2</sub>			
廃棄物排出量削減	1	<b>一般廃棄物の削減とリサイクルの促進</b> ・分別回収の促進 ・集積場所の見直し ・分別回収によるリサイクル化促進 ・発泡スチロール・プラスチック	○	基準値	3,438 kg	目標達成 梱包の木屑が多く排出されたが、新規処分場の開拓を行い処分が可能となり削減目標値を、大きく達成できた。	
			○	目標値	3,369 kg		
			○	削減比	-2%		
			○	実績値	2,722 kg		
	2	<b>コピー紙の使用量削減</b> ・社内文書の裏面使用・両面コピーの徹底 ・プロジェクター使用によるペーパーレス化 ・ミスコピーの防止	◎	基準値	301 kg	目標達成 現施策を継続し、特に社内使用コピー用紙の裏紙使用を徹底促進した結果、目標達成できた。取組みを継続する。	
			○	目標値	289 kg		
			○	削減比	-4%		
			○	実績値	243 kg		
	3	<b>廃プラスチック</b> ・分別回収によるリサイクル化促進 ・使い捨て製品の使用や購入を抑制	○	基準値	48 kg	目標未達成 生産増加により材料とともに梱包資材も多くなり目標の達成はできなかったが、減少に努め、取組みを続行する。	
			△	目標値	47 kg		
			△	削減比	-3%		
			○	実績値	201 kg		
					増加比	319%	

取組み手段ごとの評価: ◎:十分成果があった ○:概ね成果があった △:一部未達 ×:未達

### 3. 環境活動の結果と評価、次年度の取組

3-2. 南山田工場

勝率(目標達成率) 0.78 7勝2敗 (9項目中 2項目未達)

主な取組み計画			達成状況		評価(結果と今後の取組み)	
廃棄物排出量削減	4	<b>汚泥</b> ・処理設備の保全・管理 ＊酸洗浄廃液を社内施設で無害化処理した後の汚泥	○	基準値	220 kg	<b>目標達成</b> 基準年度の生産量より増産となり、洗浄廃水が増加したが、処理後の汚泥としては削減できた。引き続き削減に努める。
				目標値	216 kg	
				削減比	-2%	
				実績値	160 kg	
5	<b>産業廃棄物</b> ・集積場所の見直し ・分別回収によるリサイクル化促進	○	基準値	702 kg	<b>目標達成</b> 分別の呼び掛けが功を奏し分別場所への保管も出来ている。現施策を続行する。	
		△	目標値	688 kg		
		○	削減比	-2%		
		○	実績値	526 kg		
	○	削減比	-25%			
節水	1	<b>水道水・工業用水の削減</b> ・節水運動の呼びかけ ・溶接機冷却水設備の点検	◎	基準値	1,500 m <sup>3</sup>	<b>目標達成</b> 節電と同様全員が節水意識が高まり目標を達成できた。今後も節水を心がける。
			◎	目標値	1,440 m <sup>3</sup>	
				削減比	-4%	
				実績値	995 m <sup>3</sup>	
		削減比	-34%			

取組み手段ごとの評価: ◎:十分成果があった ○:概ね成果があった △:一部未達 ×:未達

#### 3-3. 東京営業所

所員5名の小さな所帯ですが、全サイトにおける環境活動の展開方針に基づき、廃棄物とコピー紙の削減を活動項目に設定して、所員全員で取り組んでいます。今年度の達成状況は2勝0敗です。

#### 3-4. 滋賀工場

常勤者が不在につき、本社・工場の環境管理責任者が、南山田工場の支援を得ながら、環境側面での施設管理等を行なうとともに、スポット的に本工場を使用する者に対して、環境活動についての教育、指導を行なっています。

## 4. 活動事例 トピックス

環境活動の取組みの一例を、写真でご紹介します。

太陽光電池23KW増設(計 33KW)



人感センサー付照明の採用



ダイヤモンド監視装置



敷地境界の緑地拡大



新食堂棟の屋上緑化



新社屋



新食堂棟



通路の整備



廃棄物置き場の整備



上水貯水槽、キュービクルの新設



電気自動車



# 4. 活動事例 トピックス

花壇のアイドル



4年前のスクラップ置場が花壇に



地域貢献活動  
南山田工場での清掃活動



本社・工場 クリーンUP作戦



ヒートアイランド対策で栽培したサツマイモの収穫



環境活動は日々の積み重ね

社会貢献活動  
エコキャップ回収

累計個数: 37,660個  
ワクチン: 47.1人分  
CO<sub>2</sub>: 297kg相当

環境教育と啓蒙活動 社内報



緊急事態 全社避難訓練の実施

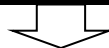


## 5. 代表者の見直し

年度末に、社長に「代表者の見直し」として、環境管理責任者から【表-5】の各情報をインプットし、同表に記載するアウトプットがありました。アウトプットのあった各事項は、2012年度活動に反映しています。

【表-5】代表者の見直し

インプット情報		
インプット事項	概要	管理責任者の提案等
システム運用に係る評価	環境への取組みの自己チェックでは、'07年の開始時195/524(37%)が、今年度期では388/488(79%)へと着実に改善する等、システムは有効に機能している。	1. 環境方針 現方針を堅持する。
環境目標・計画の達成状況 環境関連法規等の順守状況	本レポート該当項目記載どおり 本レポート該当項目記載どおり	2. 環境目標・計画 1) 電力リスクを低減するために、安全衛生には最大限の配慮をしつつ、節電を強力に進める。 2) 中期経営計画と連動して、当社の製品・技術による環境面での社会貢献を確実に推進する。
是正及び予防処置の状況	3か月連続して各月の目標未達項目の推進責任者には、是正処置指示書を発行し挽回に努めた。また全社的に各面でのリスクアセスメントを実施し、予防に努めた。	3. システムの各要素 ISO9001との類似システムについては統合化等を推進し、システムのスリム化及び運用の迅速化並びにリスクマネジメントへの反映を図る。また、外部機関との連携を強化する。
内部監査の結果	今年度もCSR監査の一環として、環境活動の重要性及び各自の役割についての認識をテーマに監査した結果、良好であることを確認した。	
周囲の変化の状況	原子力発電所の稼働停止に起因し、電力事情が逼迫。 計画停電が実施される可能性が高い。	



代表者のアウトプット
1. 環境方針 現在の方針を継続する。 2. 環境目標・活動計画 1) 当社環境対応製品/技術の新規開発及び既存製品の省エネ、長寿命化を計画的に推進する。 2) 電力供給逼迫の状況に鑑み、節電、省エネには最大限の取組みをする。 3. システムの各要素 環境活動は当社の最重要課題であり、ISO9001との統合化、環境におけるリスクマネジメントの強化を図る。

## 6. 環境関連法規制等の順守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

※東京営業所は全て該当せず

適用される法規制	適用される施設、毎年必要な報告等	本社・工場	南山田工場	滋賀工場
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物、産業廃棄物管理票交付等状況報告書	○	○	○
騒音・振動規制法	ペンディングマシン、空気圧縮機、送風機、機械プレス等	○	○	該当せず
消防法	少量危険物取扱所、屋内貯蔵所	○	○	該当せず
下水道法	酸による表面処理施設	○	○	該当せず
高圧ガス保安法	液化窒素貯槽、高圧ガス容器貯蔵所	○	○	該当せず
労働安全衛生法	有機溶剤中毒予防規則、粉じん障害防止規則に係る作業	○	○	該当せず
電気事業法	自家用電気工作物	○	○	○
PCB特別措置法	PCB含有コンデンサ(微量含有は環産産発第040217005号による)	微量○	該当せず	○
浄化槽法	浄化槽	該当せず	○	○

環境関連法規制等の順守状況の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。また、過去3年間にわたって違反や訴訟もありませんでした。